

アフガニスタン東部地震

この活動は終了しました



被害状況／課題

山岳地帯を直撃。崩落によるアクセス困難

2025年8月31日、アフガニスタン東部においてマグニチュード6.0の地震が発生しました。震源はナンガハール県とクナール県の境界付近に位置し、クナール、ナンガハール、ラグマン各県を中心に甚大な被害が生じました。死者は約2,000人に上るとともに、多数の住民が住居を失い、テントなどでの生活を余儀なくされるなど、50万人以上が深刻な影響を受けました。

被災地は山岳地帯に位置しており、土砂崩れなどにより主要道路が寸断され、支援活動のアクセスに著しい困難が生じました。首都カブールの事務所から出発した緊急支援チームは9月5日に被災地に入り調査を開始。その結果、テントや毛布などの避難資材、医療物資、飲料水、緊急食料などが強く求められており、迅速な支援が必要とされていることがわかりました。



(上) 被災者が暮らすテント (下) 被災者に話を聞くAARカブール事務所の職員＝クナール県で2025年9月

AARの取り組みと成果

女性が世帯主の家庭や障がい者世帯を優先した緊急支援物資の配付

AARはクナール県を中心に、ナンガハール県、ラグマン県で緊急支援を実施しました。女性や子どもが世帯主となっている世帯、障がいのある家族を含む世帯など特に脆弱な被災世帯を優先して支援しました。

①まず発災直後の2025年9月に232世帯（約1,600人）に対し、飲料水、毛布、調理器具、衛生用品、靴などを配付し、被災直後の生活を支えました。

②11月には、1,200世帯（約9,000人）を対象に、米や小麦、油などの食料に加え、冬服や毛布を配付し、厳しい冬を乗り越えるための支援を実施。これにより、生活の安定と防寒対策の強化を図りました。

③12月には、現地の障がい者支援団体と連携し、視覚障がい者のいる51世帯（約450人）に対して、約2カ月分の食料や衛生用品、毛布に加え、白杖を提供しました。障がいのある人々が取り残されないよう、個別の状況に応じた支援を実施しました。

これらの支援により、合計1,483世帯（約11,000人）が食料や生活必需品を受け取り、被災直後の不安の軽減と、その後の生活再建に向けた基盤づくりにつなげることができました。



(上) 支援物資を持ち帰る人々(右) 配付した衛生用品や調理器具＝2025年12月



毛布や白杖を受け取った視覚障がい者の男性＝2025年11月8日



「地震で家も仕事も失い、食料もありません。他の団体の支援では障がい者世帯は対象外となることが多く、親戚や村人に頼って生き延びるしかありませんでした。今もテントで暮らしていますが、今回の支援は配付もスムーズで物資の質にも満足しています。おかげで冬を少し安心して過ごせそうです」 脚と視力に障がいのあるハイダーさん(右)＝ナンガハール県で2025年11月

QRコードから、被災した障がいのある方々へのインタビュー動画をご覧いただけます。

